

働く障害者らを、地域住民が支援するコミュニティー農園の整備予定地



障害者の就労 高齢者に生きがい

コミュニティー農園開設へ

【当別】障害者就労や地域住民の交流の場となるコミュニティー農園を、町内のNPO法人当別町青少年活動センターゆうゆう24が、町内太美地区に開設する。計画では、今秋にも地元産の野菜を使ったレストランを開業し、来年から整備した農園で生産した野菜を提供する。簡単な作業には認知症のお年寄りにも参加してもらう予定だ。
(上田貴子)

当別のNPO法人

計画予定地は西当別小近くの町有地で、敷地面積は1890平方メートル。ここに、農園を整備し、平屋約200平方メートルのレストランと、ビニールハウスを建てる。

レストランでは障害者3人とスタッフ2人が働く。農園は、北海道医療大学の学生や、近隣の高齢者

おほか、軽度の認知症のお年寄りにもできることを手伝ってもらおう。また、店や農園の運営には地域の高齢者らに参加してもらい、生きがいづくりにもつなげる。

秋にまずレストラン

デイサービス利用者などにも使ってもらうことを検討。事業費は約3500万円、このうち3千万円は国の補助金を受け

る。ゆうゆうは、医療大OBらで2005年に設立、町内で障害者の就労拠点「共生型地域オープンサロン」や、障害児と子育て支援を行う「いきよき」などを運営している。

新施設を担当する菅原秀和さん(29)は「人を支えることは生きがいにもつながる。お年寄りの経験や知恵を借り、障害のある人たちが地域住民が共生できる施設にした」と話している。